

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業  
戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)  
日本・リトアニア共同研究 事後評価  
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	日・リトアニアにおける遺伝性乳癌の遺伝学的特徴の比較検討及び乳房 MRI による早期乳癌の検出能に関する研究
研究開発代表者	中村 清吾
代表機関	昭和医科大学

○評価委員会コメント

成果：

- 日本側は計画を上回る検体を収集し、BRCA 遺伝子の変異部位や変異頻度の相違点や共通点など、乳がんの遺伝的背景に関する新たな知見を得た。
- 多遺伝子パネル検査（MGPT）の将来的な臨床応用や制度設計の示唆となる成果が得られ、MRI 画像の収集や MRI ガイド下生検の技術移転など波及効果が認められた。
- 日本とリトアニア間の人的交流や若手研究者の参画が認められ、国際的な研究基盤が強化された。

課題・改善点：

- 倫理審査手続きの遅れや新型コロナウイルス感染症の影響により、リトアニア側の検体数は限られた。その結果、統計解析の深度や幅に影響が認められた。
- 電子カルテを含むリトアニアの高度な医療情報システムに関する知見を日本に還元する目標は、十分には達成されなかった。
- 国際共同研究としての基盤をさらに強化するためには、画像所見の早期診断への応用や、若手研究者の育成およびキャリアパス支援など、さらなる工夫と明確な戦略が望まれる。